

株主優待

年2回、 おこめ券を 贈呈いたします。

毎年3月31日および9月30日現在の株主および実質株主の皆様に対し、お米券を年2回、以下の基準により贈呈いたします。

割当基準日<3月31日>

100株(1単元)以上500株未満……1kg相当
500株以上1,000株未満……2kg相当
1,000株以上10,000株未満……5kg相当
10,000株以上……10kg相当

割当基準日<9月30日>

1,000株以上……3kg相当



おもに、全国の米穀店、スーパー、コンビニ等でご利用いただけます。

(注)平成18年9月30日現在の内容で記載しております。



株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
株主総会 6月下旬に開催
基準日 定時株主総会関係 3月31日
期末配当金支払関係 3月31日
中間配当支払関係 9月30日
その他はあらかじめ公告いたします。
株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
(郵便物送付先) 〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号
(電話お問合せ先) みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)

同取次所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
みずほインベスターズ証券株式会社
本店および全国各支店

公告の方法 公告につきましては、当社下記のホームページに掲載いたします。但し、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。

<http://www.arisaka.net/home.html>

単元株式数 100株

■ お知らせ

1. 名義書換請求・単元未満株式買取請求・住所変更等に必要の各用紙のご請求は、株主名簿管理人の下記の専用ホームページにて出力できます。

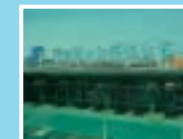
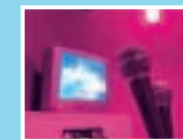
<http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/> [お手續内容](#)

2. 株券を喪失された場合の手續は、「株券失効制度」により従来の公示催告・除権判決により再発行を受ける手續より簡便となりました。詳細は株主名簿管理人 0120-288-324 (フリーダイヤル) にご照会ください。



ARISAKA

Interim Business Report



To Our Shareholders

株主の皆様へ



代表取締役社長 有坂 順三

健全で明るく楽しい憩いの場を、 納得のいくサービスとともに。

>> 事業の効率化に全力。

当中間期は、積極的な店舗展開とともに不効率店の閉鎖に力を注ぎました。平成18年8月に「ジョイプラザあさひ店(三重県三重郡朝日町)」を、同年9月に「ジョイプラザ門司駅前店(福岡県北九州市門司区)」をそれぞれ開設しました。一方、不効率2店舗、複合施設内における不効率事業部門であるスーパー銭湯1店舗、カラオケ2店舗、その他の事業部門の中の飲食2店舗の閉鎖を行いました。これにより、当中間期末の直営店舗数は32店舗、共同店舗は4店舗となりました。

売上高は46億38百万円(前年同期比16.2%増)、営業利益は設備に係る減価償却費の増加の影響もありましたが、好調な売上高により、3億90百万円(前年同期比23.2%増)、経常利益は2億48百万円(前年同期比17.8%増)となり、当中間純利益は45百万円(前年同期比48.4%減)となりました。

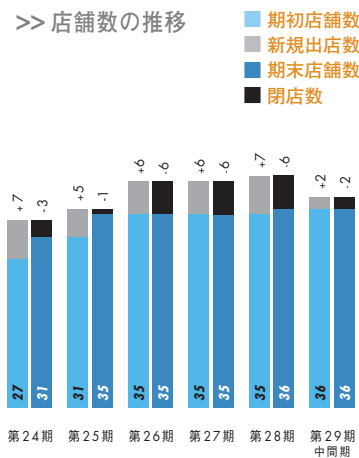
>> これからの新規出店は賃借店舗で。

当社は、店舗の大型化など業務拡大の途上にあり、店舗の大型化に伴う設備コストの増加が業績に影響を及ぼす可能性もあります。しかしながら、この1~2年は設備投資による減価償却費が増加するものの、その後は過年度の既存設備に係る減価償却費の減少が大きくなり、償却額が減少に転じることから、売上高の増加に加え、順調な利益を計上できるものと予測しています。

また、新たな設備購入債務の発生を抑えるため、新規出店については賃借店舗を基本とし、可能な範囲において資産のオフバランス化を実施して、投資効率の良い新規出店を進めてまいります。そのため、一方で不効率と思われる店舗・部門のリストラを積極的に実施し、計画に基づく新規出店を着実に実現していくという基本的な経営戦略を進めていく方針です。新規出店にあたっては、より多くの出店情報を入手し、調査・厳選し、早期着手することを心掛けています。

*オフバランス化：資産・負債とみなされるべきものを、債権流動化などにより会計上の資産・負債から外し、貸借対照表に計上しないこと。

>> 店舗数の推移



>> 資産の効率的な活用を。

当社は、大型アミューズメント施設でしか味わえない臨場感と醍醐味を実現するため、大型機械や最新機種を採用するとともに、多数の集客が可能な複合店舗の出店を進めています。大型店舗を集客が見込める地域に出店するには、多額の設備投資や出店費用が必要となり、中小型店に比べると資金の調達額が増え、有利子負債も増加します。そのため、公募増資による市場からの資金調達に加え、今後は銀行借入金に依存する割合も多くなります。新たに開設する店舗について可能な範囲においてオフバランス化し、有利子負債の削減を積極的に進めていく方針です。

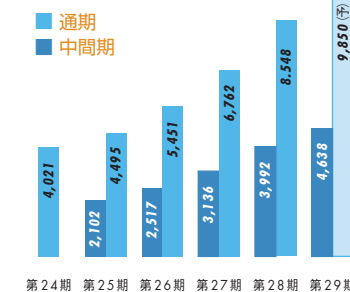
また、店舗の大型化に伴いアミューズメント機器の設置台数の増加が見込まれるほか、高額機器の採用により、リース料および減価償却費の増加、特に減価償却費の増加が利益を抑える要因となります。閉鎖した不効率店舗の機器を新たにオープンする大型店に移動するなど、資産の一層の効率化を目指していきます。

>> 通期の見通し。

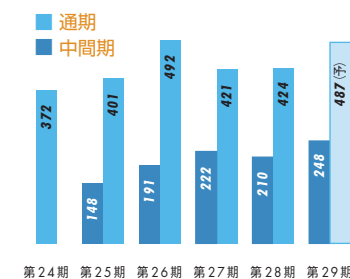
通期の業績は、既存店の順調な業績に加え、前期に開設した店舗の業績の通期計上と当期に開設した店舗および開設予定の新店舗の業績見込みにより、売上高が98億50百万円(前期比15.2%増)、経常利益が4億87百万円(前期比15.0%増)、当期純利益が1億35百万円(前期比20.7%減)を予想しています。

通期のキャッシュ・フローについては、営業活動によるキャッシュ・フローが25億53百万円程度になると予想しています。投資活動によるキャッシュ・フローは△38億57百万円程度を予想しています。財務活動によるキャッシュ・フローは14億89百万円程度を予想しています。この結果、前期に比べ現金及び現金同等物の増加額は1億85百万円程度となり、期末残高は9億33百万円程度になると予想しています。当期末の配当は当初計画のとおり1株当たり7円50銭とし、中間配当金と合わせて15円とさせていただきます。引き続き、株主の皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

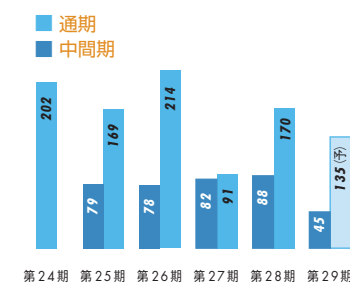
>> 売上高 (単位:百万円)



>> 経常利益 (単位:百万円)



>> 中間(当期)純利益 (単位:百万円)



Review of Operations

事業別営業概況

★ゲーム事業

当中間期は、不効率店舗2店舗を閉鎖しましたが、前事業年度に開設した店舗の通期寄与と当中間期に開設した店舗の業績により、売上高は3,951,405千円（前年同期比18.8%増）となりました。平成18年9月末現在35店舗を運営しています。

★ボウリング事業

前事業年度に開設した店舗の通期寄与と当中間期に開設した店舗の業績により、売上高は329,110千円（前年同期比22.3%増）となりました。平成18年9月末現在12店舗を運営しております。

★スーパー銭湯事業

新規参入他社との競合激化と当中間期に不効率店舗1店舗を閉鎖したことにより、売上高は95,293千円（前年同期比16.0%減）となりました。平成18年9月末現在3店舗を運営しています。

★カラオケ事業

当社は複合施設の集客増を目的に、あくまで利用者へのサービスの一環として設置運営していますが、当中間期に2店舗閉鎖したことにより、売上高は29,038千円（前年同期比14.2%減）となりました。平成18年9月末現在3店舗を運営しています。

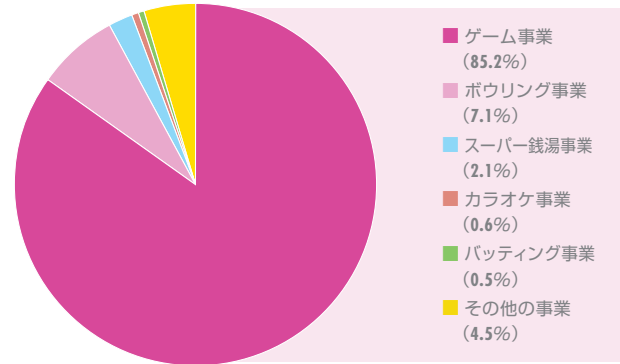
★バッティング事業

施設の複合化を目的に設置運営していますが、当中間期に1店舗開設したことにより、売上高は25,643千円（前年同期比81.5%増）となりました。平成18年9月末現在3店舗を運営しています。

★その他の事業

ゲーム事業に付随した業務である機器売上が前年同期比25百万円の減少となったことから、売上高は207,610千円（前年同期比12.1%減）となりました。

>> 事業別売上高構成比



>> 事業別売上高

事業名	第28期中間期	第29期中間期	対前年増減率(%)	第28期
	金額(千円)	金額(千円)		金額(千円)
ゲーム事業	3,325,820	3,951,405	18.8	7,165,174
ボウリング事業	269,057	329,110	22.3	617,268
スーパー銭湯事業	113,425	95,293	△16.0	224,925
カラオケ事業	33,862	29,038	△14.2	66,388
バッティング事業	14,132	25,643	81.5	25,779
その他の事業	236,268	207,610	△12.1	448,683
合計	3,992,566	4,638,102	16.2	8,548,220

>> 既存店売上昨年対比 (%)

事業名	4月						5月						6月						7月						8月						9月						合計													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	4月	5月	6月	7月	8月	9月																				
ゲーム事業	93.0	114.4	110.2	102.5	98.9	94.4	104.0	88.8	91.6	100.0	97.8	92.3	105.9	95.7	92.9	90.8	86.4	87.4	86.2	81.9	87.8	91.7	85.0	86.8	86.7	86.5	98.6	96.9	95.2	91.3	95.4	82.9	91.0	117.3	94.4	58.9	110.9	80.6	71.2	9.0	77.8	79.2	合計	92.0	110.6	108.1	101.0	91.0	94.9	102.3

Financial Statements

財務諸表

(単位：千円、端数切捨て)

■ 中間貸借対照表 (要旨)	第28期中間期 平成17年9月30日現在	第29期中間期 平成18年9月30日現在	第28期 平成18年3月31日現在
(資産の部)			
流動資産	1,835,831	1,915,785	1,973,466
固定資産	10,894,354	13,021,442	12,015,625
有形固定資産	9,859,226	11,331,065	10,703,007
無形固定資産	69,875	81,056	113,416
投資その他の資産	965,253	1,609,320	1,199,202
繰延資産	7,423	1,563	3,126
資産合計	12,737,609	14,938,791	13,992,218
(負債の部)			
流動負債	2,527,978	3,412,742	3,772,175
固定負債	7,626,449	8,923,977	7,599,537
負債合計	10,154,427	12,336,719	11,371,712
(資本の部)			
資本金	922,650	—	922,650
資本剰余金	920,070	—	920,070
利益剰余金	720,216	—	748,615
その他有価証券評価差額金	30,516	—	41,356
自己株式	△ 10,271	—	△ 12,186
資本合計	2,583,182	—	2,620,505
負債・資本合計	12,737,609	—	13,992,218
(純資産の部)			
株主資本	—	2,571,329	—
資本金	—	922,650	—
資本剰余金	—	920,070	—
利益剰余金	—	741,303	—
自己株式	—	△ 12,694	—
評価・換算差額等	—	30,742	—
その他有価証券評価差額金	—	30,742	—
純資産合計	—	2,602,072	—
負債・純資産合計	—	14,938,791	—

(単位：千円、端数切捨て)

■ 中間損益計算書 (要旨)	第28期中間期 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで	第29期中間期 平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	第28期 平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで
売上高	3,992,566	4,638,102	8,548,220
売上原価	3,393,255	3,957,588	7,430,893
売上総利益	599,310	680,514	1,117,327
販売費及び一般管理費	282,482	290,087	547,008
営業利益	316,828	390,426	570,318
営業外収益	90,598	68,247	234,394
営業外費用	196,687	210,490	380,296
経常利益	210,740	248,182	424,416
特別利益	—	437	3,017
特別損失	31,765	130,036	120,064
税引前中間(当期)純利益	178,975	118,584	307,369
法人税、住民税及び事業税	99,100	74,517	92,606
法人税等調整額	△ 8,914	△ 1,780	44,396
中間(当期)純利益	88,788	45,847	170,366
前期繰越利益	602,930	—	602,930
中間配当額	—	—	53,179
中間(当期)未処分利益	691,719	—	720,117

(単位：千円、端数切捨て)

■ 中間キャッシュ・フロー計算書(要旨)	第28期中間期 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで	第29期中間期 平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	第28期 平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	605,713	1,270,900	1,869,537
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,040,434	△ 2,112,901	△ 3,448,911
財務活動によるキャッシュ・フロー	624,446	858,057	1,772,498
現金及び現金同等物の増加額	189,726	16,056	193,124
現金及び現金同等物の期首残高	602,924	847,398	602,924
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	—	51,348
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	792,651	863,454	847,398

■ 資産・負債・資本の状況

総資産は、新規出店及び既存店舗のリニューアル等の設備投資の増加により、前期末に比べ9億46百万円増加し、149億38百万円（前期比6.8%増）となりました。

総負債は、設備投資に伴う資金調達により、9億65百万円増加し、123億36百万円（前期比8.5%増）となりました。純資産は、特別損失の計上による中間未処分利益の減少により、18百万円減少し、26億2百万円（前期比0.7%減）となりました。

■ 損益の状況

売上高は、前事業年度以降に開設した店舗の売上高などにより、6億45百万円増加し、46億38百万円（前年同期比16.2%増）となりました。営業利益は、設備投資による減価償却費の増加の影響もありましたが、好調な売上高により74百万円増加し、3億90百万円（前年同期比23.2%増）となり、経常利益は38百万円増加し、2億48百万円（前年同期比17.8%増）となりました。中間純利益は不効率店等の設備の除却損等により、42百万円減少し、45百万円（前年同期比48.4%減）となりました。

■ キャッシュ・フローの状況

営業活動によって得られた資金は、税引前中間純利益の計上および減価償却費等の非資金費用の増加等により、12億70百万円（前年同期比6億65百万円増）となりました。投資活動によって使用された資金は、有形固定資産の取得等による支出の増加等により、21億12百万円（前年同期比10億72百万円増）となりました。財務活動によって得られた資金は、8億58百万円（前年同期比2億33百万円増）となりました。以上の結果、当中間期末における現金及び現金同等物の残高は前中間期より、70百万円増加し、8億63百万円となりました。

